



写真上・岩村役場があった文次郎の一角、東西5間半・南北4間と文献に残されている。右側の田んぼ道が旧立田道といわれている。写真下・金地の小字図(資料提供・藤本真事氏)



口にあつたと記されており、文  
次郎にあつたことがわかります。  
村役場は金地・岩次・京田・松  
本・神通寺・包末・堀内・福田・  
蔵福寺嶋の10村(当時の名称)  
を管理していました。

当初、小学校のあつた垣添の  
場所が判らなく、金地の多くの  
方々にお尋ねしました。その中  
で、坂本寿雄さんの奥さんが場  
所を教えてくださいり、また、文  
次郎の範囲は岩本武雄さんの奥  
さんが教えてくださいりました。

金地にもまた「金地城跡」があり、城域は福船の岩村城と同規模であり、金地公民館のある城八幡宮あたりと考えられています。城主は金地越中守とも包地右京進ともいわれるがさだかではありません。「南国市史」下巻の中では、同一人物か縁者であるうと結んでいます。

岩村の歴史  
ヒストリア

第2回

かつて金地が岩村の中心地であつたと言つたら驚く人が多いと思います。少し前まで岩村小学校も岩村役場も神通寺にあり、農協もここにありました。しかし、明治時代には、岩村小学校も岩村役場も金地にあつたのです。

ここで金地の歴史についてさかのぼつて調べてみましょう。「岩村村史」によると天正時代

## 岩村の歴史

第2回

(1573～1592)の秦氏地  
検帳では包地(現在の金地とは漢字が異なっています)になつていて、それまでは見舞田・城・包地芝・包地南・武近の5村に分かれていました。寛永地検帳(1630年・江戸時代初期)から、金地の文字に変っています。ご存知の通り、この時代にはほとんどの資料が残されてなく、「地検帳」が唯一残された資料

「岩村村史」には公立小学校が「垣添」にあり名前を金地小学校といい明治7年に設立されており、生徒数が26名であったと記されています。

現在の堀ノ内部落の岡崎昭夫さん・内村忠重さん・松下充夫さん宅の北側あたりになります。さらに後日、岩本武雄さんが「金地に役場があつたことを聞いたことがある」との証言もいたきました。

**金地が岩村の中心だった**  
明治時代、役場と小学校が存在した

明治時代、役場と小学校が存在した

口にあつたと記されており、文  
次郎にあつたことがわかります。

金地の間には小川が流れており、  
その川沿いの田んぼ道が立田道  
といわれています。

本・神通寺・包末・堀内・福田・  
藏福寺嶋の10村(当時の名称)  
を管理していました。

金地にもまた「金地城跡」があり城域は福船の岩村城と同規模であり、金地公民館のある城

当初、小学校のあつた垣添の場所が判らなく、金地の多くの方々にお尋ねしました。その中で、坂本寿雄さんの奥さんが場所を教えてくださり、また、文次郎の範囲は岩本武雄さんの奥さんが教えてくださりました。

八幡宮あたりと考えられていました。城主は金地越中守とも包地右京進ともいわれるがさだかではありません。「南国市史」下巻の中では、同一人物か縁者であろうと結んでいます。

(寄稿者・福船 和田真一)